

分科会では他県の先生方と実践を交流しながら、「生徒指導」や「道徳教育」について学ぶことができました。教師が児童一人一人の変容に気づき認めること、仲間同士で認め合うことが大切であると実感しました。多くの学校がよさみつけを実践しており、学級の仲間だけでなくたくさんの方が自分を見ているという安心感につながり落ち着いて過ごせるようになったという話も聞きました。私自身、児童の自己肯定感を高めることを課題に感じていたので、他の先生方の実践を生かし、今後は児童の小さな変容にも気づき認められるようにしていきたいと思えました。

今年初めてこのような大会に参加させていただきましたが、他県は若手の先生方の参加も多く、様々な実践から学ぼうとする意識の高さに刺激を受けました。